

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立陽北中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年 国語 157人 社会 157人 数学 157人

理科 157人 英語 157人

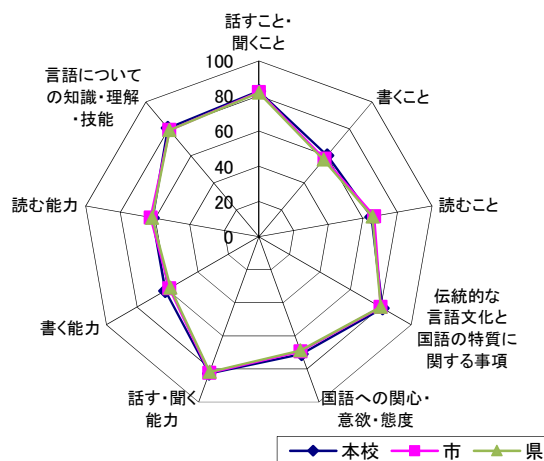
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	82.7	82.3	81.8
	書くこと	60.4	58.0	57.2
	読むこと	64.9	66.6	65.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	81.1	80.0	79.9
観点	国語への関心・意欲・態度	70.9	69.4	68.8
	話す・聞く能力	82.7	82.3	81.8
	書く能力	61.5	58.8	58.1
	読む能力	61.4	62.5	61.7
	言語についての知識・理解・技能	80.6	79.2	79.1



★指導の工夫と改善

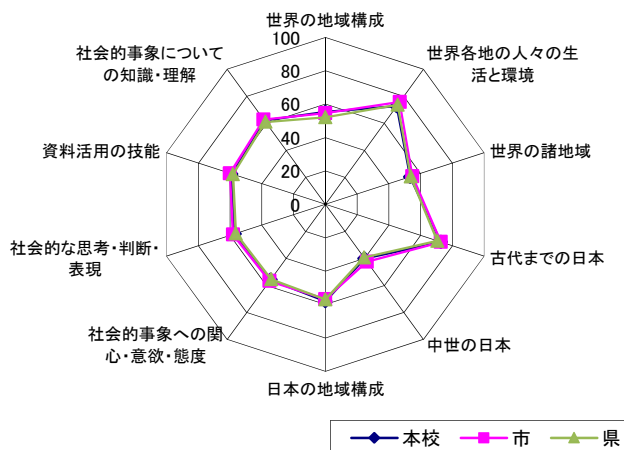
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○全体的な正答率が県、市を上回っている。</p> <p>○「相手の発言を注意して聞いて、自分の考えをまとめることができる」ことを問う記述式の問題で、市正答率を6ポイント以上上回っている。</p> <p>●「聞き手に理解してもらうための話し方を工夫聞き取ることができる」ことや「話の内容を正確に聞き取ることができる」ことを問う問題では、5ポイント以内ではあるが県、市正答率を下回っている。</p>	<p>・自分の話を相手にわかりやすく伝えるための工夫を折に触れて指導する。コロナ禍において、生徒同士が話し合う活動ができない中での「話すこと・聞くこと」の学びの習得を目指すため、動画・音声資料やクロームブックのカメラ機能などを活用したい。</p>
書くこと	<p>○全体的な正答率が県、市を上回っている。</p> <p>○作文問題における「3段落構成で文章を書くことができる」ことを問う問題では、県正答率を5ポイント以上上回り、市正答率も上回っている。</p> <p>○作文問題における「読み取った内容を明確にして書くことができる」ことを問う問題では、片方の問題で県正答率を5ポイント以上上回り、市正答率も両問題共に上回っている。</p> <p>●「伝えたい事実や事柄について自分の考えを明確にして書くことができる」ことを問う記述式の問題では、県、市正答率を上回っているものの、県正答率を0.5ポイント上回るに留まり、校内正答率も25.5に留まった。</p>	<p>・教材を読む際の「初発の感想」を書く活動や、授業の振り返りを自分の言葉で書く活動等、短文作成の機会を欠かさないことで、更なる能力伸長を目指す。</p> <p>・「読むこと」との連動を図り、情報や資料を正確に読み取り、場面や状況に応じた題材や内容、構成を考えて書くことができるように指導する。</p>
読むこと	<p>○「登場人物の心情の変化を捉えることができる」ことを問う問題で、県、市正答率を上回っている。</p> <p>●全体的な正答率が県、市を下回っている。</p> <p>●問題ごとの正答率を比較すると、説明的文章の読解、文学的文章の読解ともに、5ポイント以内ではあるが、県、市正答率を下回っているものがほとんどである。</p> <p>●「文章の構成や展開を捉えることができる」ことを問う問題の正答率が50を切り、47.8であった。</p>	<p>・文章内容の正確な読み取りを練習させる。普段の授業や試験の中でも、文末まで読み切らないために誤った受け取り方をしてしまう様子も時折みられるため、概要を素早く確認するような「ななめ読み」で終わらせる読み方が「文章読解」ではないことを指導する。</p> <p>・説明的文章において、文章構成を捉えながら読むことで文章読解の理解の深化を図ることができるように指導する。</p>
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>○全体的な正答率が県、市を上回っている。</p> <p>○「単語について理解している」ことを問う問題で、県、市正答率を5ポイント以上上回っている。</p> <p>●漢字の読み書きについて、ほとんどの問題で県、市正答率を上回っているが、「貸す」の書きとりが県の平均を下回り、「有益」の読みとりは県、市平均を5ポイント以上下回った。</p>	<p>・漢字ワークを活用し、正しい漢字の読み書きができるように継続して指導する。</p> <p>・国語ワークの意味調べ問題や、折に触れて辞書やクロームブックで単語を調べる場面を意識的に用意することで、語彙力の伸長を図る。各教室に設置されている国語辞典を積極的に活用する。</p>

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	55.4	54.7	52.3
	世界各地の人々の生活と環境	72.8	75.9	73.7
	世界の諸地域	53.5	54.8	53.9
	古代までの日本	72.7	72.7	70.5
	中世の日本	39.9	42.4	39.3
	日本の地域構成	57.8	56.7	56.9
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	55.7	56.7	55.3
	社会的な思考・判断・表現	57.1	58.1	56.4
	資料活用技能	59.3	60.1	58.2
	社会的事象についての知識・理解	62.3	62.9	61.1



★指導の工夫と改善

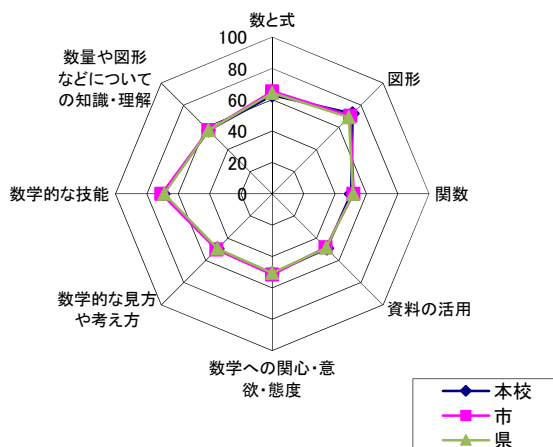
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ○県・市より正答率が若干高い。 ○地形図の特徴について理解している。 ○地域区分について約80%の生徒が理解できている。 ●世界の諸地域の産業についての正答率が20%程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の産業についてグラフの読み取りを行い、基礎知識の定着を図る。
世界各地の人々の生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> ○オアシスについて正答率が7割を超えている。 ●県・市より正答率が若干低い。 ●無回答の生徒が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界各地の生活について、資料を活用して基礎知識の定着を図る。
世界の諸地域	<ul style="list-style-type: none"> ●県・市より正答率が若干低い。 ●記述問題の準正答率が高い。 ●基礎的な知識と、資料を活用して考察し、正確に表現することに課題がある。 ●各地域の地形についての正答率が50%程度である。 ○ヨーロッパの経済格差について80%の生徒が理解できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から読み取った情報を簡潔な文章で表現する力を育成していく。
古代までの日本	<ul style="list-style-type: none"> ○県・市の正答率とほぼ同値である。 ●文化についての問題の正答率が50%程度である。 ○古墳時代についての問題の正答率が80%を超えている。無回答も少ない。 ●飛鳥時代・平安時代の制度・文化についての理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥時代、平安時代の政治的特徴について、資料を読み取り、基礎知識の定着を図る。
中世の日本	<ul style="list-style-type: none"> ●県・市の正答率より若干低い。 ●鎌倉時代の幕府と御家人の関係性について、建武の新政についての問題の正答率が20%程度である。 ●執権政治について半数の生徒が正答しているが、無回答の生徒が20%ほどいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・権力の対立構図や執権政治の仕組みについての基礎知識の定着を図る。
日本の地域構成	<ul style="list-style-type: none"> ○県・市の正答率より若干高い。 ●日本の標準子午線についての理解を問う問題の無回答率が高い。誤答・無回答の割合が半数を占めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳の読み取り方や時差の計算の求め方等の問題を繰り返し解くことで理解を深めさせる。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	62.8	65.4	64.4
	図形	72.5	70.5	69.0
	関数	50.2	51.9	51.5
	資料の活用	49.2	48.1	48.6
観点	数学への関心・意欲・態度	50.7	51.5	50.4
	数学的な見方や考え方	49.5	50.2	49.4
	数学的な技能	69.4	70.6	68.9
	数量や図形などについての知識・理解	57.5	57.5	57.4



★指導の工夫と改善

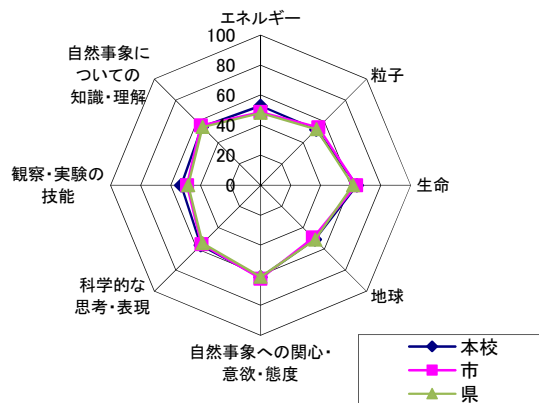
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> ●市、県の平均を下回っている。 ●絶対値についての理解度が市の平均を約9ポイント下回っている。 ○数量を文字式で表す設問では、市の平均を8ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学で出てくる重要な語句を授業でまめに話題に出して、すぐ確認できるようにしたり、教室や廊下に掲示したりするなど工夫していきたい。
図形	<ul style="list-style-type: none"> ○市の平均を2ポイント、県の平均を3.5ポイント上回っている。 ○平面図形を回転させてできる立体についての設問では、正答率92.4%と高い結果になっており、市の平均を約6ポイント上回っている。 ●底面積と高さが等しい円錐と円柱の体積の関係についての設問では、市の平均を若干下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体積を求める公式は確実に身に付けさせるとともに、定着の度合いを図るために補充プリントや小テストの実施を行うようにしていきたい。
関数	<ul style="list-style-type: none"> ●市、県の平均を若干下回っている。 ●関数についての設問では、市の平均を10ポイント下回っていて、正答率も22.3%と低い結果になっている。 ○反比例の式を表したり、比例のグラフを書く設問では、市の平均を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関数についての理解が不十分なところが見られる。表、式、グラフをうまく活用し、丁寧に確認していきたい。また、1次関数や2次関数の学習につなげていきたい。
資料の活用	<ul style="list-style-type: none"> ○市、県の平均を上回っている。 ○ヒストグラムの特徴から、考えが適切でないことを説明する設問では、市の平均を5ポイント上回っている。 ●相対度数や累積度数についての設問では、市の平均を若干下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要な語句を身に付けさせることはもちろんのこと、資料をまとめるための有効な手段になってくるので、丁寧に指導していきたい。また、まとめたグラフから傾向を考えたりする問題などにつなげていきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	52.9	48.8	48.1
	粒子	52.4	54.4	52.6
	生命	64.1	63.7	61.5
	地球	51.1	49.4	51.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.4	62.3	61.1
	科学的な思考・表現	56.4	55.7	54.8
	観察・実験の技能	52.9	49.0	48.3
	自然事象についての知識・理解	55.2	56.3	54.8



★指導の工夫と改善

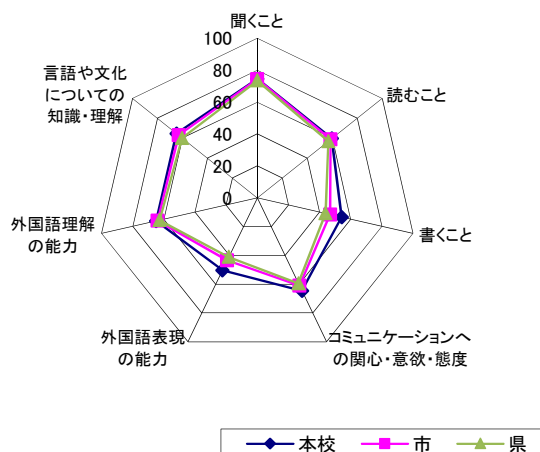
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○県・市より正答率が高い。</p> <p>○「光源から出た光の道すじの作図」問題の正答率が非常に高く、市の平均を21.7ポイント上回っていた。</p> <p>●「おもりにはたらく重力とばねののびの関係のグラフ」問題の正答率が、市の平均を1.6ポイント下回っていた。</p>	<p>・作図等の問題を繰り返し取り組み、しっかりと理解できるように指導していきたい。</p> <p>・「2力のつり合い」や「おもりにはたらく重力」についての理解度が高い。力の大きさとばねののびの関係については理解不足が見られるので改善していきたい。</p>
粒子	<p>○「沸騰し始めた時間の読み取り」問題の正答率が高く、市の平均を4.6ポイント上回っていた。</p> <p>●県・市より正答率が若干低い。</p> <p>●「蒸留によって集められた液体」問題の正答率が低く、市の平均を4.0ポイント下回っていた。</p>	<p>・基礎的が定着していない内容が見られるため、「金属の性質」「気体の性質」「質量パーセント濃度」「蒸留」等の復習をし、しっかりと身につけさせるような工夫をしていきたい。</p>
生命	<p>○県・市より正答率が若干高い。</p> <p>○「アイビーの根のつくり」問題の正答率が高く、市の平均を4.3ポイント上回っていた。</p> <p>●「シダ植物とコケ植物の違い」問題の正答率が高く、市の平均を4.6ポイント上回っていた。</p>	<p>・「顕微鏡の使い方」の知識及び技能は定着している。今後も、実験観察に顕微鏡を使い、習熟できるようにしていきたい。</p> <p>・「植物のなかま」「脊椎動物のなかま」等の知識が十分に定着していないため、分類のしかたやそれぞれの特徴を復習し、理解度を高めていきたい。</p>
地球	<p>○県・市と正答率が同等である。</p> <p>○「地層が堆積した当時の海岸からの距離変化」問題の正答率が非常に高く、市の平均を10.7ポイント上回っていた。</p> <p>●「火成岩のでき方」問題の正答率が低く、市の平均を1.9ポイント下回っていた。</p>	<p>・ある程度基礎・基本は定着してるが、「火成岩のでき方」等の問題に対しては、若干の落ち込みが見られた。火成岩や堆積岩の特徴をまとめたり、練習問題を解いたりして改善を図りたい。</p>

宇都宮市立陽北中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	74.6	74.4	73.5
	読むこと	59.7	58.7	56.9
	書くこと	54.2	46.8	43.9
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	64.6	61.0	59.4
	外国語表現の能力	50.4	43.5	41.1
	外国語理解の能力	65.0	64.0	62.8
	言語や文化についての知識・理解	64.7	62.9	60.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○全体的に県・市と正答率がほぼ同等である。</p> <p>○絵を適切に表している英文を聞き取る問題では、約90%の生徒が理解できている。</p> <p>●まとまりのある英文を聞き、概要や内容を捉える問題では若干県・市の平均を下回っている。</p> <p>●対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答える問題では誤答あるいは無回答の生徒が半数以上である。</p>	<p>・まとまった文量の英文を聞き、要点を捉える問題を繰り返し行い、聞き取りの能力を高める。</p> <p>・授業の中にディクテーションを取り入れる。</p> <p>・発音指導を充実させ、英語の音をより正確に捉えられる力を育成する。</p>
読むこと	<p>○全体的に県・市の正答率を若干上回っている。</p> <p>○長文の読み取りでは、県・市の平均を5ポイント程度上回っている。</p> <p>●語彙の知識、理解を問う問題では、正答率が市の平均をやや下回っている。</p> <p>●読み取った内容をふまえて答える問題では、正答率が約25%となっており、無回答の生徒もいる。</p>	<p>・単語と熟語の実際の運用例を提示し定着を促す。</p> <p>・読み取りに必要な語彙の獲得を目指し、既習内容の復習を適時実践する。</p>
書くこと	<p>○全体的に県・市の正答率を上回っている。</p> <p>○情報に基づいて書く英作文では、県・市の平均を10ポイント以上上回っている。</p> <p>●対話の流れに合った英作文を書く問題では、約25%の生徒が無回答であり、正答率も約27%となっている。</p>	<p>・新出文法の導入時等に2～3文程度の短い英文を書く活動を行い、表現力の向上を図る。</p> <p>・既習事項を活用し、短い会話に慣れさせたり、対話文(スキット)の作成をさせたりし、対話の受け答え方や適切な発問について定着を図る。</p>

宇都宮市立陽北中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した生徒の肯定割合はそれぞれ97.4%、79.0%で、市の平均より4.2ポイント、3.9ポイント高い。全員に、毎日、家庭学習に取り組むことを推奨している成果が出ている。本校の学習指導の方針である「家庭学習の習慣化」の徹底を図りたい。

○「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加している」と回答した生徒の肯定割合は、それぞれ81.5%、85.4%で、ともに市の平均より6.6ポイント高い。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」と回答した生徒の肯定割合は94.3%で、市の平均より14.2ポイント高い。基礎・基本の確実な定着のため、授業のねらいを明確化し、振り返りの時間を確保するような指導に努めていきたい。また、本校の学習指導の方針である「楽しく、分かる授業の展開」を達成するため、学ぶ意欲を高める魅力ある授業の実践に取り組んでいきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した生徒の肯定割合は74.5%で、市の平均より11.1ポイント高い。今後も、各教科や道徳、学級活動等、様々な場面において自分を見つめる場や機会を設定して自己理解を進めるとともに、生徒の長所や進歩、頑張りなどを認め、自己肯定感を高めるような指導を推進していきたい。

●「早寝早起きを心がけている」と回答した生徒の肯定割合は65.6%で、市の平均より6.3ポイント低い。基本的な生活習慣の定着を図り、健康で安全な生活を送る能力と態度を育てたい。

●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の肯定割合は61.2%で、市の平均より5.2ポイント低い。定期テスト前などは、テスト計画を立てさせて取り組ませている。普段の家庭学習でも、自分で計画が立てられるような指導をしていきたい。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と回答した生徒の肯定割合は52.2%で、市の平均より15.1ポイント低い。国語科を中心に、各教科で「正確に理解し適切に表現する」力を伸ばす指導をしていきたい。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の家庭学習の充実を図る。	学習活動の展開を工夫し、より高いレベルでの学習態度の育成を図る。また、宿題や課題の出し方を工夫し、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」「家で授業の復習をしている」と回答した生徒の肯定割合が市の平均を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えを文章にまとめて書くことが苦手である。	「正確に理解し適切に表現する活動」を意図的に取り入れ、書く力や話す力を伸ばす指導の工夫を図る。	全教科を通して、単元等のふり返りを「書く」ことを持続し、自分の考えを「書く」と併せて「話す」ことで表現することに取り組ませる。